

本市議会の



議員席前に設置した発言席で行う一般質問のようす（一問一答方式）

質問内容（議案の内容以外の質問に限ります）
本市の行政全般にかかわる事務の執行状況や将来の方針等への疑問や提案などです。

質問時間
答弁を含め、一人当たり60分以内です。

高齢者

今後の高齢者施策は

問 9年度からの次期計画である高齢者計画・第10期介護保険事業計画は、どのように策定を進めているのか。

答 市民アンケート等で把握した実態やニーズをもとに、学識経験者や福祉関係者等で構成する専門分科会の意見を踏まえ、策定している。

問 次期計画の策定に当たり、どのようなことが課題と認識しているのか。

答 市民アンケートの結果から、認知症施策の推進や、地域における相談体制の充実が重要な課題と認識している。介護サービスの質と量を保つため、介護人材確保の支援の充実が必要ではないか。



市内の介護・障害福祉事業所、医療機関が出展し、開催した就職相談会

答 これまで、就職相談会や資格取得支援のほか、外国人介護人材を対象とした日本語研修等、本市独自の取り組みを行ってきた。次期計画でも、取り組みを継続するとともに、介護DX推進による生産性向上も含め、総合的に介護人材施策を推進していく。

終活支援へのさらなる取り組みを

問 単身の高齢者が増え、自身の死後の手続きや葬儀等、いわゆる終活への不安を抱える市民が増加したと考える。終活支援の取り組み状況は。



答 成年後見・あんしんサポートセンター八王子※が、権利擁護の観点から、死後の手続き等を含めた相談に対応するほか、高齢者あんしん相談センターがエンディングノート等の紹介等を行っている。

問 緊急連絡先や葬儀の希望等、生前に本人の意思を市が把握し、登録しておく仕組みが必要ではないか。

答 登録制度を既に実施している自治体があることは把握しており、情報収集等を行

っている。終活支援事業全体を考える中で、本制度導入の検討を進めていく。

子ども・若者

子ども・若者支援の充実に向けて

問 子どもの居場所づくり等の支援として、都が始める「子供食堂等居場所支援事業」の活用について聞きたい。

答 従来の「子供食堂推進事業」と「子供の居場所創設事業」を再編した新たな制度であるが、まだ詳細は示されていないため、今後、本市の子ども食堂や居場所支援の状況等を踏まえ、活用の可能性を検討していく。

問 子ども・若者には、自分たちの居場所は自分たちで作れるという考えを持ってもらいたい。市には、子ども・若者自らの発案・実践が当たり前となるまちを目指し、施



策に取り組んでもらいたいかどうか。

答 子ども・若者の意見を尊重したまちづくりに関する庁内研修を7年度に実施した。引き続き、子ども・若者の発案・実践の機会の重要性を啓発し、子ども・若者の意見を尊重した施策の実施に向け、取り組んでいく。

医療費助成の負担金廃止を

問 小学生から高校生世代へは、通院1回につき一部負担金を200円としている。負担金を廃止する自治体も増えており、子どもたちの健康を守る観点からも、本市も負担金を廃止できないか。



答 不確実性が高まっている社会経済情勢の激しい変化を踏まえ、負担金廃止に向け、検討する必要があると考えている。子どもたちが安心して必要な医療を受けられる環境整備を行い、健やかな育成と保健の向上を図っていく。